# 令和７年度
# 劇場・音楽堂等機能強化推進事業
# 成果報告書
# ①（基礎データ・公演事業の実績値等）

| 地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業 | |
|---|---|
| 団体名 | 公益財団法人文京アカデミー |
| 施設名 | 響きの森文京公会堂（文京シビックホール） |
| 内定額 | 5,197　（千円） |

# （1）令和7年度　助成対象事業一覧

※実績報告書様式13－2(2)事業内容 から転記してください。
　複数の事業類型(公演・人材・普及)が助成対象となっている場合は、それぞれすべて転記してください。

| 事業番号 | 事　　業　　名 | 実施日程 | 実施会場 |
|---|---|---|---|
| 普-01 | meet the music in Bunkyo アウトリーチプログラム | 4/16～2026/2/15 | 区内小・中学校ほか |
| 普-02 | meet the music in Bunkyo 音楽普及プログラム | 8/23～24<br>10/25～26 | 文京シビックホール<br>小ホール |
| 普-03 | meet the music in Bunkyo 吹奏楽普及プログラム | 7/3～12/6 | 区内中学校　ほか |
| 普-04 | 文京で！探して・創って・演じる！区民参加演劇公演 | オーディション：10/5～6<br>ワークショップ・稽古：11/8<br>～2026/2/22<br>公演：2026/2/23 | 文京シビックホール<br>小ホール　ほか |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

## （2）〔基礎データ〕

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

【1. 事業本数】

| 項　　目 | | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
|---|---|---|---|---|
| 年間事業本数（※1） | 主催事業 | 50 | 44 | 45 |
| | 公演事業 | 27 | 20 | 23 |
| | （内、本助成対象事業本数） | 0 | 0 | 0 |
| | 人材養成事業 | 4 | 4 | 3 |
| | （内、本助成対象事業本数） | 0 | 0 | 0 |
| | 普及啓発事業 | 19 | 20 | 19 |
| | （内、本助成対象事業本数） | 11 | 11 | 12 |
| | 共生社会事業 | | | |
| | （内、本助成対象事業本数） | | | |
| | その他　内容：　配信事業 | 0 | 0 | 0 |

※1 事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

【2. 貸館日数】

| 項　　目 | | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
|---|---|---|---|---|
| 貸館日数 | ホールごとの貸館日数 | 600 | 605 | 611 |
| | ホール名：大ホール　座席数：1802 | 298 | 297 | 298 |
| | ホール名：小ホール　座席数：341 | 302 | 308 | 313 |
| | ホール名：記入してください　座席数：記入してください | | | |
| | ホール名：記入してください　座席数：記入してください | | | |
| | ホール名：記入してください　座席数：記入してください | | | |

【3. 施設利用者数（事業利用者数）・開館日数・利用可能日数・利用日数・利用率】

| 項　目 | | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
|---|---|---|---|---|
| 施設利用者数（※2） | 主催事業入場者・参加者数 | 31,707 | 24,698 | 28,016 |
| | 公演事業 | 27,351 | 18,644 | 24,304 |
| | 人材養成事業 | 2,004 | 2,215 | 1,668 |
| | 普及啓発事業 | 2,352 | 3,839 | 2,044 |
| | 共生社会事業 | | | |
| | その他　内容： | 0 | 0 | 0 |
| | 貸館事業入場者・参加者数 | 316,206 | 349,174 | 349,378 |
| | その他　内容：記入してください | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | 347,913 | 373,872 | 377,394 |
| 開館日数 | | 357 | 356 | 356 |
| 施設の利用可能日数（＝365－（保守点検日数+休館日数）） | | 299 | 300 | 300 |
| 施設の利用日数 | | 298 | 297 | 298 |
| 施設の利用率(%)（＝利用日数/利用可能日数） | | 99.7% | 99.0% | 99.3% |

| 備考 | |
|---|---|
| | 施設の利用可能日数は大ホールについて入力してあります。なお、小ホールは、以下のとおりです。<br>R5年度：利用可能日数310／利用日数302、R6年度317／308、R7年度320／313 |

※2 実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。
劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者、事業関係者（出演者、指導者、スタッフ等）は除きます。
レジデントカンパニー・アーティストの稽古利用等の場合は「その他」に記入してください。

## 【4. 公演事業データ】

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

| 事業種別 | | 事業本数 | 公演回数 | 入場者・参加者数 | 事業本数内訳 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 演劇 | 音楽 | 舞踊 | 伝統芸能 | 演芸 | 総合（※3） | その他 |
| 令和5年度 | 主催公演（※1） | 27 | 38 | 27,351 | 2 | 20 | 0 | 1 | 4 | 0 | 0 |
| | 共催・提携公演（※2） | 21 | 35 | 60,115 | 0 | 12 | 6 | 3 | 0 | 0 | 0 |
| | 貸館公演 | 727 | 704 | 260,447 | 42 | 268 | 32 | 26 | 0 | 0 | 359 |
| | 計 | 775 | 777 | 347,913 | | | | | | | |
| 令和6年度 | 主催公演（※1） | 20 | 24 | 18,644 | 1 | 13 | 1 | 1 | 4 | 0 | 0 |
| | 共催・提携公演（※2） | 28 | 61 | 75,625 | 0 | 18 | 8 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| | 貸館公演 | 724 | 724 | 279,603 | 27 | 267 | 42 | 49 | 0 | 0 | 339 |
| | 計 | 772 | 809 | 373,872 | | | | | | | |
| 令和7年度 | 主催公演（※1） | 23 | 28 | 24,304 | 1 | 18 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0 |
| | 共催・提携公演（※2） | 28 | 51 | 83,750 | 1 | 14 | 10 | 2 | 1 | 0 | 0 |
| | 貸館公演 | 713 | 713 | 269,340 | 26 | 267 | 48 | 41 | 0 | 0 | 331 |
| | 計 | 764 | 792 | 377,394 | | | | | | | |

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

## （3）各公演事業における実績値 及び 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標（値）・実績（値）

・公演事業について、助成対象事業ごとに目標（値）と実績（値）を記入してください。
・入場者数・入場者率（目標値）は**「交付申請書」**から転記してください。
・有料入場者数・有料入場者率（目標値）および評価指標・目標（値）は**「評価補助シート」**から転記してください。

※有料入場者率（%）の計算方法＝**有料入場者数÷公演の設定席数（実績値）合計×100**

| 事業番号 | 事業名 | | 入場者数 | 入場者率 | 評価指標 | 目標（値） | 実績（値） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| | | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| | | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| | | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |
| | | 目標値 | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | |

# 令和７年度

# 劇場・音楽堂等機能強化推進事業

# 成果報告書

# ②（評価）

| 地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業 | |
|---|---|
| 団体名 | 公益財団法人文京アカデミー |
| 施設名 | 響きの森文京公会堂（文京シビックホール） |
| 内定額 | 5,197　（千円） |

## （1）各公演事業の自己評価

「成果報告書①（基礎データ・公演事業の実績値等）」に記載の入場者率・評価指標・実績（値）等に言及しつつ、自己評価と自己評定（※1）を記入してください。

（※1）…S～D で記入してください。

※太枠内に記入してください

| 事業番号 | 事業名 | 自己評価 |
|---|---|---|
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

※行が足りない場合は適宜追加してください。

## （2）自己評価

## 評価項目①：創造性・企画性

（※1）…S～D で記入してください。

| | |
|---|---|
| 評価の観点 | ・（企画力）地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。<br>・（制作力）優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。<br>・（発信力・影響力）圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。<br>・（レジデントカンパニー・アーティスト）当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。 |
| | ・自由設定の観点（任意）（※2） |

（※2）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

| | 評価指標（※3） | 目標（値）（※4） | 実績（値） |
|---|---|---|---|
| 公演事業 | | | |
| 人材養成事業 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 普及啓発事業 | 質の高い事業を行うことによって、満足度を向上させる。<br>⇒参加者(入場者)、教員及び施設担当者に向けてアンケート調査を実施する（普-01、02、03、04)。 | (1)参加者（入場者）対象：満足度平均 3.7 以上［4 段階］<br><br>(2)教員・施設担当者対象：満足度平均 3.7 以上［4 段階］ | （1）参加者（入場者）対象プログラム内容についての満足度平均実績<br>【普-01】3.73<br>[回答者]コミュニティコンサート来場者<br>【普-02】3.91<br>[回答者]東京フィル・親子で楽しむ“はじめてのオーケストラ”、フルーツの国のおんがくパーティー♪来場者<br>【普-03】3.65<br>[回答者]吹奏楽クリニック参加者、シエナ de アンコン！出演者・来場者、吹奏楽 3up プロジェクト来場者<br>【普-04①】3.9<br>[回答者]区民参加演劇　参加者（出演者）<br>【普-04】3.59<br>[回答者]発表公演来場者<br>【上記普及啓発事業平均実績：3.76】<br><br>（2）教員・施設担当者対象プログラム内容についての満足度平均実績<br>【普-01】3.9<br>[回答者]出前コンサート開催校教員、アーティスト・イン・音楽室開催校教員、コミュニティコンサート開催施設担当者、アーツキャラバン開催施設担当者<br>【普-03】3.5<br>[回答者]吹奏楽クリニック実施校担当教員<br>【上記普及啓発事業平均実績：3.7】<br><br>＊全て 4 段階中 |
| 共生社会事業 | | | |

（※３）・（※４）…Ｒ７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、事業類型ごとに太枠内に自己評価を記入してください。

| 公演事業 | |
|---|---|
| 自己評価 | |

| 人材養成事業 | |
|---|---|
| 自己評価 | |

| 普及啓発事業 | |
|---|---|
| 自己評価 | ・(1)（2）ともに、事業全体の平均値としては目標値（3.7 以上）を達成しており、質の高い事業実施による満足度の確保において一定の成果を得ることができた。<br><br>・(1）参加者（入場者）対象の満足度については、事業ごとに差は見られるものの、普及啓発事業全体の平均は 3.76 となり、概ね高い評価を得ることができた。特に普-02 音楽普及プログラムにおいては、来場者である子育て世代から高い満足度が得られており、公演内容に加え、公演内容への関心を高め、来場の記念や振り返り学習のために配付しているプログラムやぬりえ等も含め、来場者の期待に応える内容となっていたと考えられる。<br>　また、普-04 区民参加演劇公演においては、ワークショップ参加者兼出演者から非常に高い満足度が得られた。地域を知り、創作し、舞台で表現する一連の体験や、参加者同士の交流を通じた充実感について高い評価が得られており、文化芸術に主体的に関わる機会の提供という点においても、事業の意義が十分に発揮されたものと考えられる。<br><br>・(2）教員・施設担当者対象の満足度についても、平均値は 3.7 と目標値に達しており、受入学校・施設から一定の評価を得ることができた。一方で、普-03 吹奏楽プログラム単体では目標を下回る結果となった。これは、学校ごとに指導方法や実施時期に関する要望が異なる中で、全てのニーズに対応した調整が困難であったことが要因の一つと考えられる。<br><br>・今後は、各事業における満足度のばらつきの要因を分析するとともに、企画力・制作力の一層の向上を図り、全体として安定的に高い評価を得られる事業運営に取り組んでいく。 |

| 共生社会事業 | |
|---|---|
| 自己評価 | |

## （２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

## 評価項目②：国際性（任意）

| | | |
|---|---|---|
| 評価の観点 | ・（国際プレゼンスの向上）海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。<br>・（国際交流）アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。<br>・（新たな創客への取組）在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。 | |
| | ・自由設定の観点（任意）（※２） | |

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

| 評価指標（※３） | 目標（値）（※４） | 実績（値） |
|---|---|---|
| | | |

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

| | |
|---|---|
| 自己評価 | |

## （2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

## 評価項目③：地域文化拠点機能

| | | |
|---|---|---|
| 評価の観点 | ・(文化拠点) 地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。<br>・(地域連携) 地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。<br>・(児童生徒への機会提供) 次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。 | |
| | ・ホール利用サービス（貸館事業）の向上（任意）（※2） | 利用者の多様なニーズに寄り添った案内業務を実践している。 |
| | ・自由設定の観点（任意）（※3） | |

（※2）・（※3）…R7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

| 評価指標（※4） | 目標（値）（※5） | 実績（値） |
|---|---|---|
| ①子どもたちを対象にした事業の実施<br>⇒子ども向け事業における券売率を調査する（普-02)。 | ①子ども向け事業（2 公演×2 回）における平均券売率 95%以上 | ①子ども向け事業（2 公演×2 回）における平均券売率実績：97.7% |
| ②ホール利用サービスの向上<br>⇒貸館利用者を対象にしたアンケート調査を実施する。 | ②接客・設備・案内について、「満足」「やや満足」と回答する割合 90%以上 | ②貸館利用者向けアンケート調査により、接客・設備・案内について、「満足」「やや満足」と回答した割合実績：<br>【設備について】95.2%<br>【接客について】98.8%<br>【案内について】94% |

（※4）・（※5）…R7 年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

| | |
|---|---|
| 自己評価 | ・①、②の双方において目標値を達成し、地域文化拠点としての機能向上に一定の成果を得ることができた。<br><br>・①子ども向け事業については、平均券売率が目標を大きく上回る結果となった。開催時期を夏休みやハロウィンなど、子どもに関連するイベントと結びつけやすい時期に設定したことにより、親子世代の来場動機の創出につながったと考えられる。<br><br>・また、普-02①東京フィル・親子で楽しむ“はじめてのオーケストラ”については、事業の特性上、公演時間が長くなることから、上演時間が子どもの昼食時間帯と重なる点について複数の意見が寄せられた。その対応として、令和 7 年度はチラシに公演予定時間を記載するなど事前周知を図った。さらに、今後の開催に向けては、令和 9 年度実施において午後開催への変更等について事業者と検討を進めている。<br><br>・②貸館利用者を対象としたアンケート調査においては、接客・設備・案内の各項目で目標値を上回る満足度を得ることができた（貸館利用者アンケート集計結果より）。<br><br>・特に、令和 6 年度の実績において「満足」「やや満足」と回答した割合が 90.2%であった〈案内〉の項目については、今年度は 94%と改善が見られた。これは、区役所との複合施設である特性を踏まえ、関係各所と調整のうえ、ホール入口案内等を施設内に新たに設置したことによる効果であると考えられる。<br><br>・今後も、子ども向け事業の充実と利用者ニーズを踏まえたサービス向上に取り組み、来場者の満足度向上を図るとともに、地域における文化拠点としての役割を一層強化していく。 |

## （2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

# 評価項目④：多様性とアクセシビリティ

| | | |
|---|---|---|
| 評価の観点 | ・(プログラムの多様さ）プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。<br>・(参画者の多様さ）アーティストやスタッフとして参画する人々の属性（性別、年代、居住地、他）が多様である。<br>・(アクセシビリティ）障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。 | |
| | ・自由設定の観点（任意）（※2） | |

（※2）…R7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

| 評価指標（※3） | 目標（値）（※4） | 実績（値） |
|---|---|---|
| 文化芸術を楽しむ区民のすそ野を広げるため、学校や地域施設でのアウトリーチを充実化するとともに、事業自体の認知度を高める。<br>⇒①アウトリーチ事業の実施数を調査する（普-01)。<br>②アウトリーチ事業の希望調査施設数(区立小･中学校を除く)(普-01)。 | ①(1)小・中学校 7 校以上<br>(2)小・中学校以外の施設 3 施設以上<br>②小・中学校以外の施設 30 施設以上 | ①アウトリーチ実施数実績<br>（1）小・中学校数：7 校<br>（2）小・中学校以外の施設：4 施設<br><br>②アウトリーチ事業希望調査数実績<br>（区立小・中学校を除く）：39 施設 |

（※3）･（※4）…R7 年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

| | |
|---|---|
| 自己評価 | ・①、②の双方において目標値を達成し、概ねの成果を得ることができた。一方で、実施施設の決定に時間を要することや、実施条件に制約があることにより希望校や希望施設での実施が困難となる場合があるなど、課題も見受けられた。今後は、物理的に対応が困難な条件を除き、改善可能な点について検討を進めるとともに、実施方法や条件のあり方について引き続き検討していく。<br><br>・①アウトリーチ事業の実施数については、(1) 小・中学校は 7 校、(2) 小・中学校以外の施設は 4 施設と、それぞれの目標値（小・中学校 7 校以上、その他施設 3 施設以上）を達成することができた。<br><br>・②小・中学校以外の施設におけるアウトリーチ事業の調査希望数については、目標 30 施設以上のところ実績 39 施設と、目標を大きく上回る結果となった。また、昨年度は希望数が 2 施設であったのに対し、令和 7 年度は 5 施設と増加しており、事業への関心の広がりが見られた。(調査対象事業：普-01④文の京コミュニティコンサート)<br><br>・また、普-01①小・中学校出前コンサートのうち、東京フィルハーモニー交響楽団の公演については、これまで応募校が特定の学校に偏る傾向が見られたことから、令和 8 年度実施分の募集に向け、希望調査の時期の見直しや事業の流れや当日の様子が分かる資料を新たに作成し配付した。その結果、前年度を上回る応募があり、周知方法の工夫による効果が確認できた。<br><br>・今後は、こうした分かりやすい資料作成の取組を他事業にも展開し、応募促進及び実施施設の偏りをなくしていくとともに、引き続き課題の改善に努めていく。 |

## （２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

# 評価項目⑤：自由設定（任意）

| | |
|---|---|
| 評価の観点 | ①　創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性　の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。（※２） |
| | ・<br>・<br>・ |

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

| 評価指標（※３） | 目標（値）（※４） | 実績（値） |
|---|---|---|
| | | |

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

| | |
|---|---|
| 自己評価 | |

（2）自己評価

## その他：エピソードやグッドプラクティス事例について

| 助成対象事業に関連して、心に響くような印象的な出来事や、他館の参考になるような好事例があれば、具体的にご記入ください。 |
| --- |
| |

## （2）自己評価

# 評価項目⑥：運営体制と持続可能性

（※1）・（※2）…R7年度評価補助シートから転記すること。
※太枠内に記入してください

○「実現性」の項目より〈(ア）～（エ)〉

| | | |
|---|---|---|
| 評価の観点 | （ア）多様な財源の確保<br>予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。 | （イ）広報・営業力<br>広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。 |
| 現状（※1） | | WEB会員制度を導入しており、メルマガの配信や先行販売や限定公演を実施する等サービスの提供をしている。会員数27,488名（2025年6月現在） |
| 目標(値)（※2） | | 会員数30,000名を目指すため、引き続き定期的なメルマガ配信等既存サービスを確実に提供する。 |
| 実績(値) | | 2025年度内に計30回のメルマガを配信。<br>WEB会員向けの先行販売を2025年度開催事業のうち、26公演で実施。<br>会員数は2026年3月末現在で29,483名となった。 |
| 団体の自己評価 | | 会員数は29,483名となり、目標の30,000名には届かなかったものの、着実な増加により集客基盤の強化につなげることができた。また、メルマガ配信や会員向け先行販売の実施により既存会員への継続的な情報提供とサービスの充実を図ることができ、会員の定着には一定の効果があったと考えられる。一方で、新規会員の獲得に向けた広報手法については更なる検討が必要であり、今後はその強化に取り組んでいく。 |

| | | |
|---|---|---|
| 評価の観点 | （ウ）他館連携<br>他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。 | （エ）設置者<br>円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。 |
| 現状（※1） | | 設置者である文京区と、月 1 回ミーティングを行い情報共有等を図っている。また、区から 9 人派遣され人材の確保がなされている。 |
| 目標(値)（※2） | | 引き続き密に連携し、人材、財源確保に努めていく。 |
| 実績(値) | | 文京区とのミーティング実績：12 回<br>区からの派遣職員：9 名 |
| 団体の自己評価 | | 設置者である文京区と定期的なミーティング（年 12 回）を実施し、事業の進捗や課題について継続的な情報共有を図ることで、円滑な事業運営に必要な意思疎通を適切に行うことができた。また、区から 9 名の職員派遣を受けることで、安定した運営体制の確保につながっており、人材面においても継続的な支援を得ることができている。<br>今後も設置者との連携を一層強化し、適切な情報共有と協議を通じて、持続可能な事業運営に向けた体制の維持・向上に努めていく。 |

○「持続可能性に関するチェックシート」より〈(オ）～（セ)〉

| | | |
|---|---|---|
| 評価の観点 | （オ）芸術監督<br>芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。 | （カ）長期的経営<br>長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。 |
| 現状（※1） | | |
| 目標(値)（※2） | | |
| 実績(値) | | |
| 団体の自己評価 | | |

| | | |
|---|---|---|
| 評価の観点 | （キ）専門人材の確保<br>今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。 | （ク）職制の整理<br>芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。 |
| 現状（※1） | プロデューサーを擁し、公演運営面においても指導を受けながら事業に取り組んでいる。 | |
| 目標(値)（※2） | プロデューサーの指導を受けながら、事業担当職員が独自の企画～公演実施まで一連の流れを習得する取り組みを行う。 | |
| 実績(値) | 事業担当職員が企画立案を行い、その中から 1 案を採用した。現在はプロデューサーの指導の下、令和 9 年度の公演実施に向けて、事業内容の具体化、キャスティング、スケジュール調整、関係各所との調整等を進めており、企画から公演実施に至る一連のプロセスの習得に取り組んでいる。 | |
| 団体の自己評価 | プロデューサーの指導の下、事業担当職員が企画立案から公演準備に至るまでの実務に主体的に関わる機会を確保することができ、専門人材の育成に向けた取組を着実に進めることができている。<br>職員提案による企画を実際の事業として具体化していく過程を経験することで、企画力および公演運営に関する実務能力の向上につながっている。<br>今後は、引き続きプロデューサーの専門的知見を活用しながら、より多くの職員が一連の業務を担える体制づくりを進め、持続的な人材育成と運営体制の強化に取り組んでいく。 | |

| | | |
|---|---|---|
| 評価の観点 | （ケ）世代間バランス<br>年齢バランスを考慮した人材確保を行っている（若年層の雇用に努めている）。 | （コ）ジェンダーバランス<br>女性管理職比率が 30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。 |
| 現状（※1） | | |
| 目標(値)（※2） | | |
| 実績(値) | | |
| 団体の自己評価 | | |

| 評価の観点 | （サ）ワークライフ・バランス<br>仕事と育児･介護等の両立支援制度を整備し、推進している。 | （シ）コンプライアンス順守<br>情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。 |
|---|---|---|
| 現状（※1） | | 外部研修を積極的に活用し、職員のコンプライアンス意識の向上と順守徹底を図っている。 |
| 目標(値)（※2） | | 予算の制約上、全職員一斉での研修参加が難しいため、年度内で最低 2 名以上の職員を外部研修へ参加させる。 |
| 実績(値) | | 2025 年 10 月 9 日、在職年数 5 年以上の職員 2 名を対象に、外部オンライン研修「ビジネスモラル＆コンプライアンス基礎講座」の受講を実施した。 |
| 団体の自己評価 | | 研修ではグループワーク等を通じて実例に基づいた理解を深めることができた。在職 5 年以上の受講者が、自らの知識を更新するだけでなく、他の職員に対しても日頃の業務を通じて適切な助言・アドバイスを行えるようになったことは大きな成果である。<br>今後も限られた予算の中で外部研修等を効果的に活用し、受講機会の確保と知識の共有を継続する。これにより、組織全体としてのコンプライアンス意識の維持・向上に努めていきたい。 |

| 評価の観点 | （ス）ハラスメント防止対策<br>職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル･ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。 | （セ）適正な契約事務<br>アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。 |
|---|---|---|
| 現状（※1） | | 適正な契約処理を徹底しており、フリーランス保護法等新たな制度が導入された際には、社内研修を実施し職員が適切な契約を結べるよう学習の機会を設けている。 |
| 目標(値)（※2） | | 職員研修により引き続き適正な契約業務にあたるよう努める。 |
| 実績(値) | | 契約が適切に執り行われるよう、新規採用職員向けに、会計・契約／文書作成研修を実施。3 名が参加した。 |
| 団体の自己評価 | | 契約書については、弁護士のリーガルチェックを経たフォーマットを標準採用し、取引条件の明文化を徹底している。実務においては、事業担当部署と経理部門によるクロスチェックを実施することで、適正な報酬算定や支払期日の遵守を担保している。<br>また、新規職員 3 名を対象とした会計・契約研修を実施し、適切な実務知識の習得を図った。今後も継続的な研修を通じて知識の更新を行い、適正な契約事務の遂行に努めていく。 |

## （3）総評

※太枠内に記入してください。

| 団体の自己評価 |
| --- |
| ○当館のミッション達成について<br>当館のミッションである「地域の芸術文化活動の拠点として、地域の人たちが良質な文化芸術を気軽に楽しめ、自ら文化芸術に関わることができる場や機会の提供」に基づき、各事業を展開した。各評価指標においても概ね目標を達成しており、事業全体を通じて本ミッションは概ね達成することができた。<br><br>○普-01「meet the music in Bunkyo アウトリーチプログラム」では、小・中学校、福祉施設、区内文化施設などに赴いて公演を実施し、地域に根ざした環境の中で良質な文化芸術の鑑賞・体験機会を提供した。特に学校公演においては、児童・生徒が慣れ親しんだ環境で実施することで、リラックスした状況の中で質の高い公演を届けることができた。また、福祉施設においては事前のヒアリングを通じてニーズを把握し、利用者に適したプログラム提供を行うことができた。<br><br>○普-02「meet the music in Bunkyo 音楽普及プログラム」では、子ども向けのオリジナル演目を継続して実施し、平均券売率は目標を上回る結果となり、健全な事業運営が出来たとともに、安定した集客基盤を形成できた。夏休みやハロウィンなど、子どもに関連するイベントと結びつけやすい時期設定により親子世代の来場動機を創出できたことに加え、配付物等を含めた工夫により高い満足度を得ることができた。一方で、公演時間に関する意見を踏まえ、今後の開催時間の見直しについて検討を進めている。<br><br>○普-03「meet the music in Bunkyo 吹奏楽普及プログラム」では、経験者向けの内容に加え、「吹奏楽 3up プロジェクト」により初心者にも楽器に触れる機会を提供し、裾野の拡大に寄与した。また、対象者のレベルに応じたプログラム構成とすることで、幅広い層に対応した事業展開を行った。<br><br>○普-04「文京で！探して・創って・演じる！区民参加演劇公演」では、ワークショップの街歩きを通じて文京区の魅力を発見し、それを脚本化し演じることで、創造と表現の両面から文化芸術に関わる機会を提供した。地域資源を活用した取組により、参加者の地域への理解と愛着の醸成につながり、地域の中核を担う劇場としての役割を果たした。<br><br>○普-05「バリアフリー対応」では、手話通訳や字幕タブレットの提供を行い、多様な来場者に配慮した鑑賞環境の整備を進めた。これにより、これまで観劇にハードルを感じていた層に対しても来場機会の拡充を図ることができた。<br><br>○全体を通して、各事業において高い満足度を維持するとともに、アウトリーチの拡充や利用者サービスの向上、広報手法の工夫等により、地域における文化芸術の裾野の拡大と拠点機能の強化を図ることができた。今後は、各事業の実施を通じて得られた成果と課題を踏まえ、企画力・制作力のさらなる向上と運営体制の充実を図り、地域に根ざした文化芸術拠点としての役割を一層強化していく。 |

| 備考 |
| --- |
| |